

意見提出フォーマット

意見提出元	(株) Big Picture International
-------	-------------------------------

意見項目	意見内容
(2)ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題(周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備)	<p>アナログからデジタルへの移行により、思わぬ利益や、より効率的な周波数利用にむけた配当 (dividend) がもたらされ、革新的な技術、製品、サービス、企業が育つ機会が広がるのが約束されず。</p> <p>今般の総務省のワイヤレスブロードバンドの実現に向けた意見公募を受け、左記の項目につき以下のとおり述べさせていただきます。</p> <p>国際的な相互接続性</p> <p>今日のようなグローバル化が進むビジネス環境において、規制機関にとって恐らく最も重要なことは、国際的な相互接続性を確保することであり、これにより日本の持つ最良の技術や製品、ビジネス手法を容易に海外の市場に展開でき、また一方で、海外のベストプラクティスも日本での展開が容易になり、最終的には日本の消費者に恩恵を与えることとなります。残念ながら、現在総務省の作成した計画は、2つの点においてオーストラリア、中国、韓国、米国といった他国と異なったものとなっています。1点目は、上記に挙げた国を含む多くの国が 696-806MHz 帯をモバイル・携帯電話用途とし、この貴重かつ好適な帯域における国際的な親和性を求めています。2点目は、700/900MHz のペアバンド計画を進めているのは唯一日本だけあります。</p> <p>GSMA、NGMN、ITU (世界電波通信会議 WRC-07) など影響力の強い国際的通信評議機関は皆こぞって、ワイヤレス標準策定においてはグローバルないしは地域的な一貫性と親和性が重要であると強調しています。実際 NGMN は「Next Generation Mobile Networks Spectrum Requirements White Paper (2009 年 10 月 5 日付)」において、『利用者と社会の利益に寄与するためには、モバイルコミュニケーション産業は、好適な周波数帯において十分な量を提供し、一貫性かつ親和性を確保するべきである。これはグローバル・ローミングを可能とし、スケールメリットを含むコスト効果的な経</p>

済活動に寄与するものである。』と述べています。

GSMA はまた「Position Paper for Asia Pacific on Harmonized Digital Dividend/UHF Band Plans (2009年9月26日付)」において、『携帯電話事業者や製造業者は、携帯端末機製造者がスケールメリットを達成することにより、最も効率的にマーケットの拡大に取り組むことができるようになる。親和性の欠如(地域内または他の地域との)は携帯端末の価格が法外に高価なものとなる事態を招き、ひいては分断されたマーケットではモバイルサービスの立ち上がりが激減するという事態になる。』と述べています。

このレポートは引き続き以下のようにも述べています。

『1GHz未達の周波数帯における伝播特性から見て、この700MHz UHF デジタル帯は広域通信に適している。また、このUHF帯は都市などにおける建物内での使用にも好適である。

<提言>

700MHz帯がモバイル・ブロードバンド使用に適しているのは広く知られたことであり、その利点は下記のものも含まれます。

- ・経済規模の拡大(スケールメリット)やコスト削減によるユーザーメリット
- ・より多くのサービスプロバイダーや機器メーカーが存在することによる競争の促進
- ・電波干渉を抑えることで、国境をまたいだ地域および地球規模のローミング整備の促進

日本そして日本の企業がこれらの利点を享受し、世界の潮流やビジネスチャンスから隔離されるリスクを回避するには、総務省は710-806MHzの帯域を全てモバイル・携帯電話用途とし、日本のワイヤレスをより効率的に相互接続性のあるものにすべきだと考えます。715-725MHz帯からITSの車車間通信を移動することで実現でき、これにより710-715MHzと725-730MHzのガードバンドが不要となります。ITSの開発は非常に初期の実験段階にあり、900MHz帯のような別の周波数に動かしやすく、その方が現行の割当帯域に比べ、IMTやデジタルテレビからの干渉を受けにくくなります。

<まとめ>

私がここで述べた提言は、日本の電気通信産業の国際競争力向

	<p>上、ひいては日本のインターネット・エコノミーの成長に寄与するものであると考えます。グローバル化が進む中で、コンテンツやアプリケーション、製品、サービスなどを海外の市場から取り入れたり、それらを日本から発信したりすることを促進していかなければなりません。日本は、この活気に満ちた重要な産業におけるリーダーとしての地位を確立するチャンスがあります。そのためにも、グローバル化の推進は必須であると考えます。</p>
--	---